

教育・研究業績一覧表

かや ただよし
萱 忠義

著書：

著書・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	備 考
著書(1) The Voice of EJ	共著	1998年4月~ 2001年8月	アルク <i>English Journal</i>	有名人の英語のインタビューを文法的、 談話的、社会的側面から解説。雑誌のため共著者はその時により変化。
著書(2) Iconic America 知られざる アメリカの今	共著 筆頭 著者	2013年1月	成美堂出版	大学用英語教科書。アメリカという国について の多角的な知識を習得しながら、読解、 文法、語彙に重点を置いた総合的な読解 力を養成できるテキスト。テーマは「人物」 「地理」「企業」「娯楽」「文化」など。 共著者：Jeffrey Miller
著書(3) Perspective English Expression I: Teacher's Manual (文部科学省 検定高等学校用 「英語表現 I」 教科書指導書)	共著 査読有	2013年2月	第一学習社 (pp. 8-36)	文部科学省検定高等学校用教科書の指導 書
著書(4) BBC やさしい 英語と映像で 学ぶ総合英語— BBC World Profile on DVD	共著	2014年1月	南雲堂出版	大学用英語リスニング教科書。BBCのニ ュース映像をDVDを見ながら学習する 教材。 共著者： 森田彰, 萱忠義, 佐藤明彦, 原田慎一, 高橋 礼子, Cuong Huynh
著書(5) Perspective English Expression II: Teacher's Manual (文部科学省 検定高等学校用 「英語表現 II」 教科書指導書)	共著 査読有	2014年2月	第一学習社 (pp. 282-301)	文部科学省検定高等学校用教科書の指導 書

著書・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	備 考
著書(6) TOEFL テスト フレーズで 覚える英単語	共著 筆頭 著者	2014年6月	学研教育出版	TOEFL 試験対策用単語集。コーパスデータに基づく科学的手法に基づき編纂された単語学習書。
著書(7) はじめて受ける TOEFL テスト パーフェクト 英単語	共著 筆頭 著者	2015年9月	桐原書店	TOEFL 試験対策用単語集。基本単語の使用法に関して詳細に解説を加えた。コーパスデータに基づく科学的手法に基づき作成。
著書(8) 合格への 集中対策 TEAP 予想問題	監修 ・ 共著	2016年3月	トータルゼミナール 英語教育研究所	上智大学と公益財団法人日本英語検定協会が共同開発した、英語4技能を評価できる Test of English for Academic Purposes (TEAP) の問題集。大学におけるアカデミックな場面での英語運用能力を向上できるように作成した。
著書(9) Get Ready for the TOEFL Test	共著 筆頭 著者	2017年1月	成美堂出版	大学用英語教科書。日本の大学生を対象とした TOEFL iBT と TOEFL ITP 用の教科書。TOEFL テスト初心者でもアカデミックな内容を基礎から学べ、最終的には学術的に高難度な TOEFL テストを受験できるレベルに学生の英語力を向上させることを目的とする。 共著者： Bill Benfield
著書(10) Attainable English Expression I (文部科学省 検定高等学校用 「英語表現 I」 教科書)	共著 査読有	2017年2月	第一学習社 (pp.117-128, pp.130-131)	文部科学省検定高等学校用教科書
著書(11) 英語は英語で 考える英単語 3 択問題 100 (For the TOEFL Primary Test Step 1)	共著 筆頭 著者	2017年2月	くもん出版	ETS の TOEFL Primary の出題形式に合わせた、クイズ形式の英語問題集。教室などで教員が使用したり、学習者が語学力向上のために使用したりできる内容構成をなっている。(Step 1 用)

著書・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	備 考
著書(12) 英語は英語で 考える英単語 3択問題 160 (For the TOEFL Primary Test Step 2)	共著 筆頭 著者	2017年2月	くもん出版	ETSのTOEFL Primaryの出題形式に合わせた、クイズ形式の英語問題集。教室などで教員が使用したり、学習者が語学力向上のために使用したりできる内容構成になっている。(Step 2用)
著書(13) 全新! TOEFL 托福單字大全: 語言學博士從 200萬字庫中嚴選 必考單字!	共著 筆頭 著者	2017年4月	國際學村	桐原書店の『はじめて受けるTOEFLテスト パーフェクト英単語』の中国語翻訳版
著書(14) やさしい英語の ことわざ ①日本語と 似ている 英語のことわざ	共著	2018年1月	くもん出版	日本語と似た表現の英語のことわざを、日本のことわざをきっかけに、4コマ漫画と解説で学習。日本語への興味・関心を英語へ広げながら、生の英語に触れられる学習書。
著書(15) やさしい英語の ことわざ ②くらしで 使える 英語のことわざ	共著	2018年1月	くもん出版	日本語と似た表現の英語のことわざを、日本のことわざをきっかけに、4コマ漫画と解説で学習。日本語への興味・関心を英語へ広げながら、生の英語に触れられる学習書。
著書(16) やさしい英語の ことわざ ③人生に役立つ 英語のことわざ	共著	2018年2月	くもん出版	日本語と似た表現の英語のことわざを、日本のことわざをきっかけに、4コマ漫画と解説で学習。日本語への興味・関心を英語へ広げながら、生の英語に触れられる学習書。
著書(17) やさしい英語の ことわざ ④文化のちがいが わかる 英語のことわざ	共著	2018年2月	くもん出版	日本語と似た表現の英語のことわざを、日本のことわざをきっかけに、4コマ漫画と解説で学習。日本語への興味・関心を英語へ広げながら、生の英語に触れられる学習書。
著書(18) Attainable English Expression II (文部科学省 検定高等学校用 「英語表現II」 教科書)	共著	2018年2月	第一学習社 (pp. 92-99)	文部科学省検定高等学校用教科書

学術論文：

著書・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	備 考
学術論文(1) Effectiveness of Computer-assisted Reading	単著	1999年6月	Proceedings of Sophia University Linguistic Society, 14, pp. 13-21	英文読解問題を解くときに電子辞書は必要かどうかを調べた。具体的には、独自の辞書機能を持つソフトを作り、その有用性を検証した。予想に反し、電子辞書機能は有用ではないという結果になったが、コンピュータを使えば学習効果は出ると盲目的に信じている人への警鐘となる実験となった。上智大学の吉田研作教授に主査としてご指導頂いた。
学術論文(2) Distance Learning System with Learner-adapted Hint Presentation	共著	2000年12月	Japan Distance Learning Association, Vol. 2 pp. 22-23	共著者： 田村恭久，中沢亮太， 萱忠義，ほか3名 受講者の理解に応じたヒントを提示する遠隔教育システムに関する研究。
学術論文(3) Teaching Material Development for Distance Learning with Learner- adapted Hint / Material Presentation	共著	2001年1月	Japan Society for Educational Technology, Vol. JET01-1 pp. 109-114	共著者： 田村恭久，中沢亮太， 萱忠義，ほか3名 受講者に応じた個別学習教材の開発。
学術論文(4) The effectiveness of adaptive computer use for learning vocabulary. (学位論文)	単著 査読有	2006年5月	Northern Arizona University (<i>Dissertation Abstract International (USA)</i>) 総 p. 254 博士論文 米国国会図書館登録	「学習スタイルに合った教材を与えることのできるソフトは、英語学習者にとって有益であるか」について実験調査を行った。学習スタイルを判断し、個々の学生にあった教材を自動的に与えられる語彙学習ソフトを開発した。当初の予想に反し、グループ間の有為的差は認められなかったが、多様な学習スタイルの要素を盛り込んだパソコン教材は、語彙習得にかなり効果的であることが分かった。

著書・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	備 考
学術論文(5) Effects of L2 Instruction on Interlanguage Pragmatic Development: A Meta-analysis	共著 査読有	2006年5月	John Benjamins 出版 <i>Synthesizing research on language learning and teaching</i> pp. 165-211	共著者： Jeon, E., Kaya, T (研究方法、統計手法、実験結果の部分を主に担当。pp.174-179, 187-203) ハワイ大学の Dr. Lourdes Ortega と Dr. John Norris が監修した本に掲載。語用論は教える必要があるのかという問いを、メタ分析という比較的新しい統計手法を使い結論を出した(結論：教えれば効果は出る。また明示的に教えた方が効果的である)。メタ分析とは、同じ問いに答えるために行われた実験を数多く集め、統計的指数を割り出し、総合的に答えを出すという統計手法。応用言語学では、まだまだ開拓されていない新しい手法にチャレンジ。
学術論文(6) これからの CALL (コンピ ュータ支援言語 学習) —教育実 践と理論の観 点から—	単著	2008年4月	上智大学英語教 員研究会 (ASTE) NEWSLETTER 第56号, pp. 12-18.	上智大学出身の英語教員の団体が発行するニュースレターに記事を掲載。これからのコンピュータ支援言語教育の方向性を論じた
学術論文(7) Production of polite expressions in email by Japanese English learners	単著	2008年12月	Gakushuin Language Education Center Journal, 8, pp. 10-35.	日本人学生のメールにおける英語丁寧表現を分析し、コンピュータ社会における語用論の必要性を論じた。
学術論文(8) ICTを活用した 英語学習の実 践的指導方法 と自立学習の 促進	単著	2009年9月	社団法人 私立大学情報 教育協会 平成21年度 教育改革 IT戦略大会, pp. 218-219	大学生を対象に、ICTを活用した英語学習法を指導し、学習者の自立言語学習を促進することを目的とした授業を展開した。これまで実際に行った授業内容の詳細とデータ分析結果を記した。
学術論文(9) デジタル・ネ イティブ世代 へのICTを利用 した英語学習 指導 (Introducing Digital Natives to ICT Use for English Learning)	単著	2011年1月	上智大学 言語学会会報 第25号, pp. 19-30	上智で行われた招待発表の内容を詳しく論文にしたもの。デジタル・ネイティブと呼ばれる、幼少期からデジタル機器に親しんでいる若い世代に、ICTを利用した語学学習方法をどのように教えるかを論じた。また、2010年度時点で利用できる技術を紹介した。

著書・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	備 考
学術論文 (10) 携帯型オーディオ・プレーヤーを活用した英語リスニング指導とその評価	共著	2012年3月	学習院大学外国語教育研究センター 言語文化社会 第10号 pp. 57-69	通学時間や休憩時間などの隙間時間に携帯型オーディオ・プレーヤーを使用させ、英語のリスニング力を向上する実験を行い、その結果を発表した。 共著者： 熊井信弘, <u>萱忠義</u>
学術論文 (11) スマートフォン普及後の大学生のモバイル端末利用実態	共著	2012年3月	モバイル学会 「モバイル'12」 研究論文集, pp. 123-127	スマートフォンやスマートタブレットの活用に関する調査項目を盛り込み、大学生のモバイル端末利用実態調査を行い、その結果を発表した。 共著者： 木暮祐一, 伊藤一成, 古川宏, <u>萱忠義</u> , 小張敬之
学術論文 (12) 教育・研究プロジェクト「コミュニケーション」活動成果報告ユビキタス環境におけるICTを利用した国際コミュニケーションの研究	共著	2012年3月	青山学院大学 ヒューマン・ イノベーション 研究センター (HiRC) 2011年度の成果, pp. 5-17	大学生のモバイル利用実態を把握すべく、スマートフォンやスマートタブレットの語学への活用に関する項目を盛り込んだアンケート調査を行い、その結果をまとめた。 共著者： 小張敬之, 伊藤一成, 木暮祐一, <u>萱忠義</u>
学術論文 (13) The Effects of ICT Teacher Training: Information Flow from Teacher Training to Classroom Teaching	単著	2012年5月	2012 CALL Conference The Medium Matters: Proceedings, pp. 351-353	科学研究費による研究。CALLに関して、「どのように教員に対してトレーニングを行うべきか」について行った研究の成果を紹介した。
学術論文 (14) The Impact of E-learning and M-Learning on Tertiary Education	共著	2012年10月	Proceedings of World Conference on E- Learning in Corporate, Government, Healthcare, and Higher Education 2012, pp. 303-312	フレンド型語学学習の効果を測るべく、1年に渡る実験を行い、その結果を発表した。 共著者： <u>Hiroyuki Obari</u> , <u>Kazunari Ito</u> , <u>Stephen Lambacher</u> , <u>Yuichi Kogure</u> , <u>Tadayoshi Kaya</u> , <u>Hiroshi Furukawa</u>
学術論文 (15) Describing and Illustrating Quantitative Data	単著 査読有	2013年1月	Wiley-Blackwell 出版 <i>The Encyclopedia of Applied Linguistics</i> pp. 1663-1675	2013年発行された10巻に及ぶ応用言語学百科事典の統計分析セクションを担当。国際的に実力のある応用言語学者が執筆担当する、世界を視野に入れた、この分野では初めての大百科事典。

著書・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	備 考
学術論文 (16) オンライン講義 を利用した モバイル英語 教育	共著	2013年3月	モバイル学会 シンポジウム 「モバイル'13」 研究論文集, pp. 175-176	オンライン講義 <u>Cousera</u> を利用して、英語の授業を展開し、その効果を記した。 共同研究者： 小張 敬之
学術論文 (17) ユビキタスラー ニング環境構築 に向けた大学生 による情報端末 利用の実態調査	共著	2013年3月	モバイル学会 シンポジウム 「モバイル'13」 研究論文集, pp. 169-174	大学生を対象とし、保有するモバイル端末の種類から、日常的なモバイル機器の利用の実態、英語学習におけるモバイル機器の利用や期待・意欲まで、広い範囲に関する40問の項目のアンケート調査を行った。 共同研究者： 古川宏, 木暮祐一, 伊藤一成, <u>萱忠義</u> , 小張敬之
学術論文 (18) 「コミュニケーション」教育・研究プロジェクト活動成果報告1 ユビキタス環境におけるICTを利用した国際コミュニケーションの研究	共著	2013年3月	青山学院大学 ヒューマン・イノベーション 研究センター (HiRC) 2012年度の成果, pp. 15-37	大学生による携帯電話、スマートフォン、タブレット、PCの利用状況と、学習における利用実態や需要に関する調査を実施した。 共同研究者： 小張敬之, 伊藤一成, <u>萱忠義</u> , 木暮祐一
学術論文 (19) 言語学習におけるモバイル端末の新しい活用法	単著	2013年3月	学習院女子大学 学習院女子大学紀要 第15号, pp. 19-29	『英語教育』（大修館）2014年2月号で紹介される。 現在の言語学習におけるモバイル端末の活用法に焦点を当て、利用可能なモバイル学習方法を考察し、モバイル端末を効果的に言語学習に生かすための課題と問題点について言及した。
学術論文 (20) How can we bring benefits to language learners from ICT teacher training?	単著	2013年8月	Japan Association for Language Education and Technology: 『Proceedings of the 53rd National Conference of the Japan Association for Language Education and Technology』, pp. 100-101	科学研究費による研究の結論部分を記載。CALLに関して、「どのように教員に対してトレーニングを行うべきか」について行った研究の成果を紹介した。

著書・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	備考
学術論文 (21) オンライン講義を利用したモバイル英語教育	共著 査読有	2013年12月	モバイル学会誌 VOL.3 NO.2, pp. 41-46	MOOCsの代表例であるCourseraのオンライン講義を活用し、スマートフォンやタブレット端末の利用を奨励した英語教育を、約3か月間行った結果を記した。 共同研究者： 萱忠義（筆頭）、小張敬之
学術論文 (22) 「ユビキタス・クラウド環境におけるICTを活用した国際コミュニケーションの研究」	共著	2014年3月	青山学院大学 ヒューマン・イノベーション 研究センター (HiRC) 2013年度の成果	モバイル端末の多様化と英語教育への可能性について執筆 共同研究者： 小張敬之、伊藤一成、萱忠義、木暮祐一
学術論文 (23) コンピュータを使ったCLT授業	共著 査読有	2014年3月	アルク 『コミュニケーションな英語教育を考える—日本の教育現場に役立つ理論と実践』, pp. 58-61	上智大学CLTプロジェクトの中心メンバーとなり、編集全般を担当。コミュニケーションな授業の実践編を担当。
学術論文 (24) 科学的理論に基づく語彙学習アプリの有用性	単著	2016年3月	JACET教育問題研究会『言語教育エキスポ2016』(Proceedings)	応用言語学、心理学、人間工学などの科学的理論に基づき、効率よく効果的に単語を学習できるスマートフォン・アプリを開発し、その有用性についての実証実験を行った。
学術論文 (25) Investigating the Effective Use of Smartphone Apps for Vocabulary Learning: A Comparison with Paper Books	単著	2016年8月	Japan Association for Language Education and Technology: 『Conference Proceedings of the 56th National Conference of the Japan Association for Language Education and Technology』(Proceedings)	応用言語学、心理学、人間工学などの科学的理論に基づき、効率よく効果的に単語を学習できるスマートフォン・アプリを開発し、その有用性についての実証実験を行った。具体的には、(a)アプリのみを使用する群、(b)書籍のみを使用する群、(c)アプリと書籍の両方を使用する群の3つを作り、単語を学習させ、そのデータを分析した結果、アプリと書籍の両方を使用する群に統計的有意差があることが判明した。
学術論文 (26) 英語4技能の科学的根拠に基づく指導法	共著	2017年3月	JACET教育問題研究会『言語教育エキスポ2017』(Proceedings)	2020年から英語4技能試験が大学入試に本格的に導入され始めることを受け、英語4技能を指導する上での現在の問題点を洗い出した上で、今後将来に向けて教員が如何に英語4技能を指導していくべきかを討論。
学術論文 (27) Synergetic Effect of Integrating a Smartphone App for Vocabulary Learning with the Traditional Paper-book Learning Method	単独	2017年9月	Japan Association for Language Education and Technology: 『Conference Proceedings of the 57th National Conference of the Japan Association for Language Education and Technology』(Proceedings)	2016年に行った実験の追実験で、単語学習には、書籍とアプリを併用することで相乗効果が生まれる可能性を示唆した。

学会発表等：

発表のタイトル	単独 共同 の別	発表 の 年 月	発表学会等 の 名 称	備 考
学会発表等 (1) Effectiveness of Computer-assisted Reading: Use of an Electronic Dictionary in Reading Comprehension	単独	1999年6月	The 14th Annual Conference of Sophia University Linguistic Society. Tokyo, Japan.	辞書機能を持つソフトを作り、その有用性を検証した研究。
学会発表等 (2) A Meta-Analysis of Instructional Effects on Interlanguage Pragmatics	共同	2004年3月	The 7th Annual English Conference at the Peaks. Flagstaff, AZ	語用論中間言語のメタアナリシスの発表を行った。 共同発表者：Tadayoshi Kaya, EunHee Jeon
学会発表等 (3) Consciousness- raising of Usage Issues Using CALL: Pedagogical Use of Historical Corpora	共同	2004年5月	The 3rd Annual Conference of Studies in the History of the English Language (SHEL). Ann Arbor, MI.	コーパスから得たデータをどのようにコンピュータ教材にすればよいかを検討した研究。 共同発表者：Mohammed Albakry, Tadayoshi Kaya
学会発表等 (4) A Meta-Analysis of Instructional Effects on Interlanguage Pragmatics	共同	2004年5月	Annual conference of the American Association for Applied Linguistics (AAAL). Portland, OR.	語用論中間言語のメタアナリシス。 共同発表者：EunHee Jeon, Tadayoshi Kaya
学会発表等 (5) Factors that Influence the Quality of Polite Expressions: An Investigation of E-mail Messages Produced by Japanese English Learners	単独	2004年6月	Annual conference of the Computer Assisted Language Instruction Consortium (CALICO). Pittsburgh, PA.	電子メールにおける日本人の英語での尊敬語の使用を研究。

発表のタイトル	単独 共同 の別	発表 の 年月	発表学会等 の 名称	備 考
学会発表等 (6) The Effect of a Learning-Style Based Computer Application on Learners' Processing Behavior	単独	2006年5月	Annual conference of the Computer Assisted Language Instruction Consortium (CALICO). Honolulu, HI.	博士論文の内容の一部を発表。
学会発表等 (7) To be More Analytic as a Teacher and How to Use Computer Technology for Language Teaching	単独	2006年6月	Workshop for Language Teachers for Canadian Diplomats at Canadian Foreign Service Institute. Gatineau, Quebec, Canada.	カナダの外務省の機関で、外交官に言語教育をする教師を対象に、コンピュータを言語教育にどう生かすかなどを講演。
学会発表等 (8) The Effectiveness of Adaptive Computer Use for Learning Vocabulary	単独	2006年6月	The Joint Conference of American Association for Applied Linguistics (AAAL) and Association canadienne de linguistique appliqué /Canadian Association of Applied Linguistics (ACLA/CAAL). Montreal, Quebec, Canada.	博士論文の内容の一部を発表。
学会発表等 (9) CALL in the future: from practical and theoretical points of view	単独	2007年11月	Public lecture for Association of Sophian Teachers of English (ASTE)	上智大学出身の英語教員及び研究者対象のワークショップ。CALLの歴史を踏まえた上で、これからCALLどのように扱うべきかを示唆する。 CALL研究の理論を踏まえた上で、これからどのようにCALLで外国語を教えるべきかを考える2時間にわたるワークショップを行った。
学会発表等 (10) Practical Information on CALL for Language Teacher Training	単独	2008年8月	WorldCALL 2008. Fukuoka, Japan.	大学語学教員を対象に行ったCALLの使用に関するアンケートの結果を発表。結果に基づき、教員に対するCALLトレーニングの必要性を論じた。

発表のタイトル	単独 共同 の別	発表 の年月	発表学会等 の名称	備 考
学会発表等 (11) CSCL Environment to Prompt Collective Intelligence with Use of Web Services and Natural Language Processing	共同	2008年10月	IADIS International Conference. Freiburg, Germany.	上智大学を中心とした共同研究をドイツで行われた国際学会で発表。異なった場所に存在するLMSを繋ぎ、ディスカッション内容を自然言語処理によって分析し、よりCSCLが活発になる仕組みを構築した過程を発表した。 研究代表者：田村恭久, 萱忠義
学会発表等 (12) ICTを活用した英語学習の実践的指導方法と自立学習の促進	単独	2009年9月	平成21年度 教育改革IT 戦略大会 社団法人 私立大学情報 教育協会主催, 東京	大学生を対象に、ICTを活用した英語学習法を指導し、学習者の自立言語学習を促進することを目的とした授業を展開した。この発表では、これまで実際に行った授業内容の詳細とデータ分析結果をプレゼンテーションした。
学会発表等 (13) ICTを活用した英語教育の実践	単独	2009年10月	平成21年度教科連絡会 (外国語科) 東京, 学習院女子大学	学習院の初等科から大学までの外国語関連教員が一堂に集まるワークショップで、講演を行った。現在、語学教員が自ら指導可能なICTを利用した様々な英語学習方法を紹介した。
学会発表等 (14) 第二言語習得研究に基づいた効果的な英語教授法	単独	2009年11月	学習院女子大学学会 東京, 学習院女子大学	英語教授法を歴史的観点から概観し、今後あるべき理想的な英語教授法の将来について言及した。
学会発表等 (15) デジタル・ネイティブ世代へのICTを利用した英語学習指導 Introducing Digital Natives to ICT Use for English Learning	単独	2010年7月	上智大学言語学会第25回大会 東京, 上智大学 (招待発表)	2009年度に行った、学生に対するICT教育に関する実験内容と実験結果を報告した。また、これから教員がICTを使って何をすれば良いかを説明した。

発表のタイトル	単独 共同 の別	発表 の 年月	発表学会等 の 名称	備 考
学会発表等 (16) Prospective Language Education with ICT: Latest Technology, and New Media Pathways to Literacy, Learning and Creativity for CALL	共同	2010年8月	外国語教育メディア 学会 50周年記念全 国研究大会 (シンポジウム) 神奈川, 横浜サイエンス フロンティア 高等学校	これから使用されるであろう ICT 技術の 紹介や、4つの大学で行っている ICT を 利用した語学教育の紹介をするシンポジ ウム。 共同発表者： Hiroyuki Obari, Midori Kimura, Junko Handa, <u>Tadayoshi Kaya</u>
学会発表等 (17) Easily-applicable CALL Technologies and Benefits of Blended Learning	共同	2010年12月	GLoCALL 2010, Kota Kinabalu, Sabah, Malaysia	簡単に語学学習に応用できる ICT 技術を 紹介し、その実験成果を発表した。また、 Blended Learning の有用性についても論 じた。 共同発表者： <u>Tadayoshi Kaya</u> , Hiroyuki Obari
学会発表等 (18) The Effects of ICT Language Teacher Training on Their Students	単独	2011年6月	全国語学教育学会年 次大会 JALT CALL 2011, 福岡, 久留米大学	科学研究費を頂いている研究の中間報告 を行った。CALL に関してどのようなト レーニングを行うべきかを、テクノロジ ーの現状を示しながら、説明を行った。
学会発表等 (19) スマートフォン 普及後の大学生 のモバイル端末 利用実態	共同	2012年3月	モバイル学会 モバイル'12, 大阪, 大阪市立大学	大学生のモバイル端末利用実態調査の結果 を発表した。 共同発表者： 木暮 祐一(武蔵野学院大学国際コミュニ ケーション学部), 伊藤 一成(青山学院大 学社会情報学部), 古川 宏(筑波大学大 学院システム情報工学研究科), <u>萱 忠義</u> (学 習院女子大学国際文化交流学部), 小張 敬 之(青山学院大学経済学部)
学会発表等 (20) Information flow from ICT teacher training to classroom teaching	単独	2012年3月	SWALLT, Tempe, AZ	科学研究費のプロジェクト。CALL に関 して、「どのように教員に対してトレー ニングを行うべきか」について行った研 究の成果を発表した。

発表のタイトル	単独 共同 の別	発表 の 年月	発表学会等 の 名称	備 考
学会発表等 (21) The Effects of ICT Teacher Training: Information Flow from ICT Teacher Training to Classroom Teaching	単独	2012年6月	The 15th International CALL Research Conference, Taichung, Taiwan.	CALLに関して、「どのように教員に対してトレーニングを行うべきか」について行った研究の成果を発表した。
学会発表等 (22) アンケート処理 の初歩	単独	2012年12月	私立大学図書館協会 東地区部会研究部 企画広報研究分科会, 東京, 学習院女子大学 (招待講演)	アンケートを作成し、実施し、集計する手順を統計学の観点から解説した。
学会発表等 (23) オンライン講義 を利用したモバイル英語教育	共同	2013年3月	モバイル学会 モバイル'13, 東京, 青山学院大学	オンライン講義 Coursera を利用して、英語の授業を展開し、その効果を研究発表した。 共同研究者： <u>萱忠義</u> , 小張 敬之
学会発表等 (24) ICT Teacher Training that Brings Benefits to the Language Classroom	単独	2013年5月	Annual conference of the Computer Assisted Language Instruction Consortium (CALICO), 2013. Honolulu, HI.	技術革新が進む中、教員をどのようにデジタル技術に親しませ、授業にどのようにその技術を応用すべきかを、データに基づき発表した。
学会発表等 (25) Does ICT teacher training bring benefits to the language classroom?	単独	2013年7月	WorldCALL, 2013 Glasgow, UK	デジタル技術を教員に紹介し、学習者が効果的にそのデジタル技術から恩恵を受けるには、どのような教員トレーニングが必要なのかをデータ分析をし、発表した。

発表のタイトル	単独 共同 の別	発表 の 年月	発表学会等 の 名称	備 考
学会発表等 (26) The factors that facilitate or hinder the use of ICT for language learning	単独	2013年7月	WorldCALL, 2013 Glasgow, UK	ICT技術を言語学習に活用する学習者の特徴を明確にするために、アンケート調査を行った。都内の4つの大学を対象に、計327人の被験者のデータを分析した結果を発表。
学会発表等 (27) How can we bring benefits to language learners from ICT teacher training?	単独	2013年8月	外国語教育メディア 学会 (LET) 第53回 (2013年 度) 全国研究大会, 東京, 文京学院大学	ICT技術を教員にトレーニングするとき に注意すべき点をデータに基づいて発表 した。日本の学会ではあるが、英語話者 対象に発表を行った。
学会発表等 (28) 『BBC World Profile on DVD』 の紹介	単独	2013年11月	平成25(2013)年度 「JACET 英語教育セ ミナーと教材展示 - 英語教材と 指導法の今」, 東京, 早稲田大学	早稲田大学のプロジェクトメンバーとして 作成した大学用教科書の紹介を行った。 この教科書が作成される背景にある 理論や技術的な側面についての解説をし た。
学会発表等 (29) Factors that influence language learners' ICT use	単独	2013年11月	GLoCALL 2013, Da Nang, Vietnam	都内の4つの大学を対象に行った調査に 統計的分析を行い、その結果を発表し た。ICT技術を言語学習に活用する学習 者の特徴を、重回帰分析によって明らか にした。
学会発表等 (30) 授業・論文に 役立つ 「リサーチ デザイン」	単独	2013年12月	外国語教育メディア 学会 (LET) 関東支 部第131回 (2013年 度秋季) 研究大会, 東京, 東京電機大学	研究者、大学院生、教員などを対象に、 リサーチを行うときの考え方やデザイン の方法について、ワークショップ形式で 解説を行った。また、論文作成時以外 に、授業内で得たデータをどのように分 析するかなどの実践的説明も行った。 共同発表者： <u>萱忠義</u> , 狩野紀子, 今野勝幸
学会発表等 (31) Personal Traits That Facilitate ICT Use for Language Learning	単独	2014年8月	AILA World Congress 2014, Brisbane, Australia	ICT技術と言語学習に関する調査を19 か月に渡り、4大学434人を対象に行 い、その分析結果を発表した。重回帰分 析という統計手法を用い、ICT技術を活 用して語学学習をする人の特徴を明らか にした。

発表のタイトル	単独 共同 の別	発表 の 年月	発表学会等 の 名称	備 考
学会発表等 (32) メタ分析における 実行手順とその 留意点：研究 の構想から論文 完成まで	単独	2015年3月	外国語メディア学会 (LET) 関西支部メソ ドロジー研究部会 2014年度 第4回研究会, 東京(招待講演)	近年注目を浴びているメタ分析の手法について、研究者と大学院生を対象に詳細な説明や留意点などを手ほどきした。統計手法の専門家が集まる研究部会からの招待講演。
学会発表等 (33) Globalize Your Presentations: Five points necessary for successful presentations in English	単独	2015年5月	JSIR, ISIR & APCIO 2015, Seagaia Convention Center, Miyazaki, Japan (招待講演)	国立がんセンターの医師を中心とする学会において、「日本人はどのように学術発表をすべきか」を英語で講演した。文化的に異なる人たちに自分の意思を伝えるためのテクニックを話した。
学会発表等 (34) 授業研究「アウト プット活動を どう実践・評価 するか」：大学で の Public Speaking の実践 と評価	共同	2015年6月	外国語教育メディア 学会 関東支部 第134回 (2015年度春季) 研究大会 神奈川, 慶應義塾大学 日吉キャンパス	過去に授業を行った Public Speaking のクラスについて、その実践内容と評価方法を授業研究として報告した。
学会発表等 (35) Personal Factors That Affect Mobile-Assisted Language Learning: Investigations of Japanese University Students over Three Years	単独	2015年8月	FLEAT VI, Harvard University, Boston, MA	ハーバード大学で主催された学会で、ICT技術と言語学習に関する調査の結果を発表した。3年以上に渡り行った調査をまとめ、重回帰分析という統計手法を用い、ICT技術を活用して語学学習をする人の特徴を明らかにした。
学会発表等 (36) 国際的に通用 するプレゼン テーションの 技法	単独	2015年11月	平成27年度 都留文科大学 英文学科・英文学会 共催 後期講演会, 山梨, 都留文科大学 (招待講演)	都留文科大学の英文学会の招待講演で、国際的に通用するプレゼンテーションの技法について、7つの項目を詳しく紹介した。日本文化を意識したうえで、異文化の中でどのように自己表現すべきかを話した。

発表のタイトル	単独 共同 の別	発表 の 年月	発表学会等 の 名称	備 考
学会発表等 (37) 科学的理論に 基づく語彙学習 アプリの有用性	単独	2016年3月	言語教育エキスポ 2016 東京, 早稲田大学	応用言語学, 心理学, 人間工学などの科学的理論に基づき, 効率よく効果的に単語を学習できるスマートフォン・アプリを開発し, その有用性についての実証実験を行った。
学会発表等 (38) The Effectiveness of a Theoretically- grounded Smartphone App on Vocabulary Learning	単独	2016年5月	Annual conference of the Computer Assisted Language Instruction Consortium (CALICO), 2016. East Lansing, MI.	スマートフォン・アプリを応用言語学, 心理学, 人間工学などの科学的理論に基づき開発し, その効果について発表した。
学会発表等 (39) Investigating the Effective Use of Smartphone Apps for Vocabulary Learning: A Comparison with Paper Books	単独	2016年8月	外国語教育メディア 学会 (LET) 第56回 (2016年 度) 全国研究大会, 東京, 早稲田大学	応用言語学, 心理学, 人間工学などの科学的理論に基づき開発した語彙学習スマートフォン・アプリの効果を, 紙媒体単語集と比較し, その結果を発表した。
学会発表等 (40) 英語4技能の 科学的根拠に 基づく指導法	共同	2017年3月	言語教育エキスポ 2017 東京, 早稲田大学	2020年から英語4技能試験が大学入試に本格的に導入され始めることを受け, 英語4技能を指導する上での現在の問題点を洗い出した上で, 今後将来に向けて教員が如何に英語4技能を指導していくべきかを討論。
学会発表等 (41) Synergetic Effect of Integrating a Smartphone App for Vocabulary Learning with the Traditional Paper- book Learning Method	単独	2017年9月	Japan Association for Language Education and Technology: 『Conference Proceedings of the 57h National Conference of the Japan Association for Language Education and Technology』	2016年に行った実験の追実験で, 単語学習には, 書籍とアプリを併用することで相乗効果が生まれる可能性を示唆した。
学会発表等 (42) 英語4技能試験 に向けた語彙指 導のあり方	単独	2017年10月	平成29年度教科連 絡会 (外国語科) 東京, 学習院女子大学	学習院の初等科から大学までの外国語関連教員が一堂に集まるワークショップで講演を行った。英語4技能試験に対応できる語彙力を習得する必要性を説き, その具体的な指導法を示した。
学会発表等 (43) 未来を担う子ども たちに必要な 英語の語彙知識 と学習法とは	単独	2017年11月	小学校英語教育のため の「語彙と文字 指導についての セミナー」 東京, 学習院女子大学	英語4技能試験に向けた, 語彙学習法を, 具体例を交えながら説明した講演。

一般向け講演会等：

講演会の名称	単独共同の別	発表の年月	招待企業等の名称	備考
講演会等 (1) Successful Presentations in English	単独	2015年6月	Stryker Japan, Tokyo Field Support Center, Tokyo, Japan (招待講演)	文化的に異なる人たちにどのように自己アピールをすべきかを英語で講演した。医療系のビジネスマンを対象とした招待講演。
講演会等 (2) 第二言語習得研究に基づいた効果的な英語学習法	単独	2015年6月	Stryker Japan, Tokyo Field Support Center, Tokyo, Japan (招待講演)	ビジネスマンがどのように英語学習と向き合っていくべきかを、具体的な学習方法を提示しながら講演。
講演会等 (3) ICTは語学教育にどう役立つのか～語学教育の今までとこれから～	単独	2016年6月	New Education Expo 2016 東京, 東京ビッグサイト (招待講演)	教育関連のエキスポにて、ICTを使用した語学教育を行うときの注意点などについて、企業や教員対象に講演を行った。
講演会等 (4) 英語4技能に対応した語彙指導の理論と実践	単独	2016年7月 2016年8月	GC&T 主催セミナー 英語教育改革を考える 金沢、札幌、仙台 (招待ワークショップ)	TOEFL Junior および TOEFL Primary の実施団体である GC&T のセミナー。日本各地の中学校・高等学校の教員を対象に、語彙指導のワークショップを行った。文部科学省の動向を把握した上で、英語4技能に対応した語彙力をつけるための理論を説明し、その実践方法を指導した。
講演会等 (5) グローバル社会に必要なコミュニケーション	単独	2017年11月	LSI メディエンス, 東京	医療系企業で、グローバル化した社会でどのように効率的なコミュニケーションを取り、円滑なビジネスを実現すべきかについて講演。
講演会等 (6) 大人になってからの英語学習法	単独	2017年11月	LSI メディエンス, 東京	臨界期を超えた大人が英語学習とどのように向き合っていくべきかを、具体的な学習方法を提示しながら講演。
講演会等 (7) 未来を担う子どもに必要な英語教育	単独	2017年11月	Doremi Garden Preschool International, 東京	保護者向けに、子どもたちをバイリンガルに育てるために把握しておくべきことを解説。
講演会等 (8) バイリンガルに育てるために親が把握しておくべきこと	単独	2018年11月	東京光が丘 インターナショナル プリスクール, 東京	保護者向けに、子どもたちをバイリンガルに育てるために把握しておくべきことを解説。

査読依頼：

著書・学術論文等の名称	依頼の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
査読した論文/学会発表等(1) 教育システム情報学会 (JSiSE) 学会誌 25(4) (学会誌)	2008年2月	教育システム情報学会
査読した論文/学会発表等(2) Pragmatic competence in Japanese as a second / foreign language (Mouton Series in Pragmatics) (書籍)	2008年6月	Mouton de Gruyter 出版 (1章を査読)
査読した論文/学会発表等(3) Sophia Linguistica 第56 号 (学会誌)	2008年12月	上智大学言語学会
査読した論文/学会発表等(4) The American Association for Applied Linguistics (AAAL) 2010年度学会 (学会発表)	2009年9月	The American Association for Applied Linguistics (AAAL)
査読した論文/学会発表等(5) 言語科学会第12回大会 研究発表 (学会発表)	2010年9月	言語科学会 (Japanese Society for Language Sciences)
査読した論文/学会発表等(6) Language Education & Technology 第49号 機関誌査読審査 (学会誌)	2011年12月	外国語教育メディア学会 (LET)
査読した論文/学会発表等(7) 情報処理学会論文誌 Vol.53 査読審査 (学会誌)	2012年8月	情報処理学会
査読した論文/学会発表等(8) Language Education & Technology 第50号 機関誌査読審査 (学会誌)	2012年12月	外国語教育メディア学会 (LET)
査読した論文/学会発表等(9) 日本eラーニング学会 第13号査読審査 (学会誌)	2013年5月	日本 e-Learning 学会
査読した論文/学会発表等(9) Language Education & Technology 第51号 機関誌査読審査 (学会誌)	2013年12月	外国語教育メディア学会 (LET)

著書・学術論文等の名称	依頼の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
査読した論文/学会発表等(10) Language Education & Technology 第52号 機関誌査読審査 (学会誌)	2014年10月	外国語教育メディア学会 (LET)
査読した論文/学会発表等(11) Language Education & Technology 第53号 機関誌査読審査 (学会誌)	2016年3月	外国語教育メディア学会 (LET)
査読した論文/学会発表等(12) 外国語教育メディア学会 関東支部研究紀要『LET Kanto Journal 第1号』 査読審査(学会誌)	2017年1月	外国語教育メディア学会 (LET)
査読した論文/学会発表等(13) Language Education & Technology 第54号 機関誌査読審査 (学会誌)	2017年3月	外国語教育メディア学会 (LET)
査読した論文/学会発表等(14) 外国語教育メディア学会 関東支部研究紀要『LET Kanto Journal 第2号』 査読審査(学会誌)	2017年10月	外国語教育メディア学会 (LET)
査読した論文/学会発表等(15) JACETSIG-ELE Journal JACET教育問題研究会 会誌 Language Teacher Education 『言語教師教育』 (学会誌)	2018年1月	外国語教育メディア学会 (LET)
査読した論文/学会発表等(16) Language Education & Technology 第55号 機関誌査読審査 (学会誌)	2018年3月	外国語教育メディア学会 (LET)

研究費取得などの研究業績：

研究内容	期間	研究援助機関
その他の業績(1) 文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究(B) 「協調学習データの抽出とグループを超えた再利用の研究」(研究協力者として)	2008年4月 ~ 2009年3月	文部科学省 研究代表者： 田村恭久准教授(理工学部)
その他の業績(2) 文部科学省 平成21年度 科学研究費補助金 (若手研究(B))採択、研究課題名「語学 教員へのCALL技術トレーニングとその学 習者への教育的効果の検証」(研究代表者 として)	2009年4月 ~ 2012年3月	文部科学省
その他の業績(3) 学習院女子大学 平成21年度特別研究費採 択、研究課題名「学生に対するCALL技術 の指導効果の検証」(研究代表者として)	2009年4月 ~ 2010年3月	学習院女子大学 研究協力者： 岩城宏明教授(日本文化学科)
その他の業績(4) 学習院大学 外国語教育研究センター「携 帯型オーディオプレーヤーを活用した英語リ スニングの指導とその評価」(客員研究員 として)	2010年4月 ~ 2011年3月	学習院大学 研究代表者： 熊井信弘教授 (外国語教育研究センター)
その他の業績(5) 総合研究所 eラーニング人材育成研究セン ター TF26部会(客員研究員として)	2010年4月 ~ 2015年3月	青山学院大学 研究代表者： 小張敬之教授(経済学部)
その他の業績(6) 学習院女子大学 平成22年度特別研究費採 択、研究課題名「iPad(タブレット型コンピ ュータ)を使用した語学教育の可能性の検証」(単 独)	2010年4月 ~ 2011年3月	学習院女子大学
その他の業績(7) 文部科学省 平成23年度 科学研究費補助金 (基盤研究(C))共同採択、「ユビキタ ス環境におけるデジタル教科書とモバイル ラーニングの融合に向けた研究開発」(共 同研究者として)	2011年4月 ~ 2014年3月	文部科学省 研究代表者： 小張敬之教授(経済学部)
その他の業績(8) 学習院 平成24年度安倍能成記念教育基金学 術研究助成金採択、「言語学習におけるモ バイル機器の活用と具体的な利用法の指 導」(単独)	2012年4月 ~ 2013年3月	学校法人 学習院

研究内容	期間	研究援助機関
その他の業績(9) 学習院女子大学 平成 25 年度特別研究費 採 択、研究課題名「語教育におけるメディア 教材の活用」(研究代表者として)	2013 年 4 月 ~ 2014 年 3 月	学習院女子大学 研究協力者： ウィン・グン教授 (英語コミュニケーション学科)
その他の業績(10) 学習院女子大学 平成 26 年度特別研究費 採 択、研究課題名「多様な英語を含むリスニ ング教材の作成と授業提案」(共同研究者 として)	2014 年 4 月 ~ 2015 年 3 月	学習院女子大学 研究代表者： 高橋礼子講師 (英語コミュニケーション学科)
その他の業績(11) 学習院女子大学 平成 26 年度特別研究費 採 択、研究課題名「英語 4 技能試験に対応し た語彙学習教材の開発」(単独)	2016 年 4 月 ~ 2017 年 3 月	学習院女子大学

その他の執筆：

著書・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	備 考
その他の執筆(1) 大学における教育の情報化	共著	2009年7月	学校現場のICT活性化 マガジン2009 (高校/大学) CHJeru.Magazine (pp.2-6)	今後大学における教育の情報化がどこに向かうのかについて、専門家間で対談を行ったものが記事となった。(共著：小張敬之、峰内暁世)
その他の執筆(2) チエルシステム・教材の活用事例	共著	2010年3月	学校現場のICT活性化 マガジン2010 (高校/大学) CHJeru.Magazine (pp.12-13)	学習院女子大学でのCALLシステムの使用業況をレポートした記事。(共著者：ウィン・グン)
その他の執筆(3) 今、英語教員に求められる指導・評価とは	共著	2018年4月	学校現場のICT活性化 マガジン2018 (高校/大学) CHJeru.Magazine (pp.8-13)	日本の英語教育改革の現状を踏まえ、教員は何をすべきかについて語った対談記事。(共著者：藤永史尚)